

浜松市障がい者自立支援協議会 南エリア連絡会

第2回全体会 会議録

- 1 開催日時 令和6年9月5日 午後2時00分から午後4時00分
- 2 開催場所 南行政センター 3階 大会議室
- 3 出席状況 ※敬称略
- | | |
|--------------------------|--------|
| 相談支援事業所はまかぜ | 朝倉 美穂 |
| 浜松市浜松手をつなぐ育成会（障害者相談員） | 伊藤 幸枝 |
| 浜松市社会福祉協議会 | 金沢 拓歩 |
| 新津地区社会福祉協議会 | 川嶋 利博 |
| 新津地区民生委員児童委員協議会 | 澤根 緑 |
| 地域包括支援センター三和 | 下位 彰吾 |
| 好生会三方原病院 | 鈴木 美里 |
| ワークショップくるみ | 袴田 みや |
| 天竜厚生会いとめ／ささえ | 長谷川 純也 |
| ドルチェ | 古橋 誠 |
| 静岡県立浜松特別支援学校 | 山崎 かおる |
| 事務局 南障がい者相談支援センター | 大場 拓弥 |
| | 古澤 則仁 |
| | 岡崎 敏光 |
| 南社会福祉グループ | 鈴木 紀彦 |
| オブザーバー 浜松市障がい者基幹相談支援センター | 後藤 翔一朗 |
| | 玉木 祐次郎 |
- 4 傍聴者 8名
- 5 議事内容
- (1) 会則について
 - (2) 可美・新津・白脇地区部会について
 - (3) 日中サービス支援型グループホーム中間報告の取り組みの進捗について
 - (4) 当事者との意見交換のできる場について
 - (5) 南エリア連絡会の体制について
- 6 会議録作成者 南社会福祉グループ 鈴木 紀彦

- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・無

8 会議記録

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 開 会 | 司会：浜松市南障がい者相談支援センター 大場 拓弥 |
| 2 | 議 事 | 進行：ワークショップくるみ 袴田 みや |
| | (1) | 南エリア連絡会会則について |
| | | <質疑応答> |
| | 第3条 | 社会福祉協議会について、「市社協」と「地区社協」に分けて記載をしてほしい。 → 修正する。 |
| | 第7条 | 代表等に選出されている者が、法人内異動があった際のルールは。
→ その際は改めて全体会で選出について協議する。 |
| | 第8条 | 現状すべての会議に代表が出席するような記載となっている。
→ 記載方法を修正する。 |
| | (2) | 可美・新津・白脇地区部会 中間報告 |
| | | <意見> |
| | | ・集客については引き続き課題。子ども目線になって興味を引くようなプログラム構成・チラシの作成が大切。 |
| | | ・対象年齢をさらに広げてもよかったのでは。小学生高学年はスポーツ少年団等で、参加できないという声もあった。中学生になると、また感じ方や考え方が変わってくるので新しい気づきもある。 |
| | | ・応募して待つだけでなく、こちらから尋ねるのも一つの手。例えば放課後に学校の体育館を借り上げて行うとか。 |
| | | ・少人数ながらも良い雰囲気・熱気はあった。今後も継続して種を蒔き続けることで、福祉に興味を持ってもらえれば。 |
| | | ・今回の事業をゼロベースから作りあげたことは評価。また次回に向けて今回の経験を活かせればよい。 |
| | (3) | グループホーム中間報告の取り組みについて |
| | | ※質疑応答無し |
| | (4) | 当事者と意見交換できる場について |
| | | <質疑応答> |
| | | ・参加想定機関に「障害福祉サービス事業所」という大枠での記載があるが具体的にどのサービス（相談・生活介護 etc.）を想定しているか。
→ 現段階では絞っていない。テーマによって参加機関も変わってくるはず。固定化してしまうと難しい部分がある。 |
| | | ・昨年度の西南エリアでも同様の会を行ったが、そのときの様子は。
→ 昨年は、ある相談支援事業所の方が提唱しメンバーを集めた。参加者はほぼ育成会の会員だったが、飛び入り参加もいた。グループを |

3つに分け、防災・住まい・日々の困り感について話をしていた。
平日の昼間で参加者が限られていたことが今後の課題。

(5) 南エリア連絡会の体制について

<質疑応答・意見>

- ・地域の課題を出し合い、出来ることは自助、出来ないところを公助というのが基本。南エリア特有の地域課題を整理し、理解することが前提。
→ 前回、南エリアでは緊急時の受け入れ先の確保に課題があるという話が出た。構成員の方々の個別ケースから出る課題を教えてほしい。

○以下地域課題の話へ

- ・知的障害があるが一般就労をしているケースで、高齢の親と同居しているが物が多く足の踏み場もない状態。一般就労のため福祉サービスを利用しておらず、福祉機関とつながっていないケースも多い。
- ・南エリアは比較的新しい住宅街もあり、県外から引っ越してきて孤立しているケースも多い。地域の行事にも参加していない。
高齢世帯（8050問題）だけでなく、若い世代にも課題はある。未就学児の段階からアプローチができるとよい。
- ・外国籍の方は多い。以前はブラジル国籍が大半を占めていたが、最近では中国・フィリピン・ベトナム等、多国籍化している。言葉の壁は感じる。また最近では通信制の高校が増え、選択する知的障害の子も多いが、結局単位が取れずに退学になる、大学に進学してもついていけず引きこもりになるというケースもよく耳にする。
- ・精神病棟の患者も増加し続けている。10年前と比較し約3倍。

○課題が出たところで改めて体制図について

- ・当事者中心ということを考慮すると、意見交換の場をスタート（個別支援会議と並列）に持ってきて良いのでは。
- ・体制図が複雑でわかりにくい。部会が多く事務局も案内が大変では。
- ・意見交換の場を部会・ワーキンググループの中に入れることはできないか
→ 部会・ワーキンググループ・当事者との意見交換の場を3本柱としていく方針。図が分かりづらい部分もあったと思うので、次回改めて修正したものをお示ししたい。